世界知的所有権機関 国际 原子 務 局





特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(51) 国際特許分類 4 C12N 9/02, 15/00	(11) 国際公開番号 A1		WO 90/01542
		(43) 国際公開日	1990年2月22日(22.02.90)
(21) 国際出願番号 PCT/JP8 (22) 国際出願日 1989年8月9日(09 (30) 優先権データ 特題昭63-199295 1988年8月9日(09.08.88) 特別昭63-204173 1988年8月17日(17.08.88)	. 08. 8	AT (欧州特許), DB (欧州特許),	BE(欧州特許),CH(欧州特許), FR(欧州特許),GB(欧州特許), JP, KR, LU(欧州特計),NL(欧州特許), US.
(71) 出願人(米国を除くすべての指定園について) 東レ株式会社 (TORAY INDUSTRIES, INC.)(JP/JP 〒103 東京都中央区日本格室町2丁目2番1号 Tokyo,(JP (72) 発明者:および (75) 発明者/出願人(米国についてのみ) 風見 潤 (KAZAMI, Jun)(JP/JP) 〒248 神奈川県韓倉市津西2丁目1-20 Kanagawa,(JF 中村春次 (NAKAMURA, Haruji)(JP/JP) 〒254 神奈川県平塚市宮松町11-27 Kanagawa,(JP) 後藤俊夫 (GOTO, Toshio)(JP/JP) 〒454 愛知県名古屋市中川区八穂1丁目3-9 Aichi,(JP	?)		
(54) Title: LUCIFERASE, LUCIFERASE CODING (54) 発明の名称 ルシフェラーゼ、それをコードする遺伝			R PREPARING LUCIFERASE
(57) Abstract Luciferase having the amino acid sequence of Fig. I and a gene coding it are disclosed. In ad-		Met Lys Leu Ile Ile Leu Ser I ATO AAG CTA ATA ATT CTG TCT AT 10 20	10 20 Le lle Leu Ala Tyr Cys Tal Thr Yal Aso Cys Gln Asp HT ATA THE SEC TAE TET SEC ACA GIC AAC IGC CAG GAT 30 40 50 60
dition, a recombinant vector DNA wherein the luciferase-coding gene is connected to the downstream portion of a promoter capable of expressing in each host cell, a transformant obtained by transforming each host cell by the vector DNA, and a process for preparing luciferase using such transformants are also disclosed.		Ala Cys Pro Val Glu Ala Glu Al GCA IGT CCT GIA GAA GCT GAA GC 70 80	10 40 La Pro Ser Ser Ihr Pro Ihr Val Pro Ihr Ser Cys Glu CA CCG TCA AGT ACA CCA ACA GCC CCA ACA TCT TGT GAA 90 100 110 120
		Ala Lys Glu Gly Glu Cys Ile As GCI AAA GAA GGA SAA TGI AIC GA 110 140	50 60 IP The Arg Cys Ala Thr Cys Lya Arg Asp Ile Leu Ser IT ACC AGA IGC GCA ACA IGT AAA CGA GAC ATA CTA TCA 150 150 150 180
			70 TO Gly Lys Thr Cys Cys Arg Het Cys Gln Tyr Val Ile 24 GGG AAG ACA IGC IGT AGA ATG IGC CAG IAF GTA ATT 210 220 230 240
			90 LOO LY TYP Phe Arg Thr Phe Tyr Gly Lys Arg Phe Asn Phe RA TAT TIT AGA AGG TIT TAG GGC AAA AGA TIT AAT TIT 270 Z80 290 J00
•			110 120 NB Ala Arg Gly Thr Lys Gly Gly App Trp Ser Val Thr G GCT CCA GCA ACC AAG GCT GCG GCC TGG TCT GTA ACC 310 340 350 360

Leu Thr Het Glu Asa Leu Asp Gly Gla Lys Gly Ala Val Leu Thr Lys Thr Thr Leu Glu CTC ACC ATG GAG AAT CTA GAT GGA CGG AAG GGA GCT GTA CTG ACT AAG ACA ACA CTG GAG 310 380 400 410 420

(57) 要約

本発明は、第1図のアミノ酸配列を有するルシフェラーゼ及びそれをコードする遺伝子を提供するものであり、さらに、本発明は各宿主細胞中で発現可能なプロモーターの下流に前記ルシフェラーゼをコードする遺伝子を連結してなる組換え体ベクターDNA、そのベクターDNAにより各宿主細胞を形質転換してなる形質転換体、及びそれらの形質転換体を用いたルシフェラーゼの生産方法を提供するものである。

情報としての用途のみ PCTに基づいて公開される国際出願のパンフレット第1頁にPCT加盟国を同定するために使用されるコード

AT オーストリア AU オーストリア BB ベルバード BB ベルギー BF ブルキナ・ファソ BG ブルケリア BJ ベナシ BR ブラジル CA カナデ CF 中央アフリカ共和国 CG コイス CM カメルーン DK デンマーク

ES スペイン FT スペイン FT フィランド FR フランス GA ガボン GB イギリス HU ハクリー IT イタリー JP 日本 KP 朝鮮民主主義人民共和国 KR 大韓民国 LU リヒテンカ LK スリランフルグ MC モナコ

1

明 細 書

ルシフェラーゼ、それをコードする遺伝子およびルシフェラーゼの生産方法

技 術 分 野

5 本発明は、生物発光反応を用いた分析法に有効な純化された酵素ルシフェラーゼ及びそれをコードする遺伝子に関する。さらに本発明は、前記遺伝子が挿入された新規組換え体ベクターDNA、該ベクターDNAを有する形質転換体、及び該形質転換体を用いたルシフェラーゼの生産方法を提供する。

背景技術

ウミホタル(Cypridina hilgendorfii)は、日本沿岸 に生息する海産甲殻類で、刺激を受けて海水中に青白い 発光液を放出する。発光は基質であるルシフェリンを酵素であるルシフェラーゼにより酸化することによって起 こり、ホタルや発光バクテリアの発光のように他の必須 成分を必要としない非常に単純な発光系であり、微量分 析法への利用が期待される。

しかしながら、一般にルシフェリンは化学的に合成することによって大量に得ることができるが、ルシフェラーゼは酵素であるため化学合成ができず、大量に得ることは困難である。ウミホタルのルシフェラーゼの場合も同様で、充分に純化されたルシフェラーゼは得られておらず、海洋汚染の進行でウミホタル自身の採集量が激減したことと相まって、量的な供給が保証されていない。

10

15

20

それ故に、遺伝子組換え技術を利用した該酵素の大量生 産法の確立が期待されてきた。

本発明は、高度に純化されたルシフェラーゼの化学合成法、もしくは遺伝子組換え法による合成を可能ならしめ、高純度の該蛋白質を大量に得るために、該蛋白質を特定する遺伝子配列を得、クローニングされた遺伝子配列を動物細胞、酵母、大腸菌等で発現することを可能にし、それらの細胞を用いて、高純度の該酵素を大量に得ることを目的とする。

発明の開示

本発明は第1図のアミノ酸配列を有するルシフェラーゼ、及びそれをコードする遺伝子、該遺伝子を含んでなる新規組換え体ベクターDNA、及び該ベクターDNAにより宿主細胞を形質転換してなる形質転換体、及び該形質転換体を用いたルシフェラーゼの生産方法である。

図面の簡単な説明

第1a図、第1b図、第1c図、第1d図は、ウミホタル由来のルシフェラーゼのcDNAの塩基配列及びアミノ酸配列を示す。各列の上段は、アミノ酸配列を示す。各列の下段はcDNAの塩基配列を示す。

第2図は、ウミホタル由来のルシフェラーゼをコードするCDNAを含む組換え体プラスミドpCLO7の作製法と、その制限酵素地図を示す。

第3図は、動物細胞におけるウミホタル由来のルシフ 25 ェラーゼの発現ベクターpSVLCL5の作製法を示し

10

たものである。

第4a図は、酵母におけるウミホタル由来のルシフェラーゼの発現ベクターpMFE3A、pMFE3B、pMFE3C、pMFE3Dの制限酵素地図、第4b図は、各々の発現ベクターにおけるαフェロモン遺伝子/ルシフェラーゼcDNAの接続部位近傍の塩基配列、及びアミノ酸配列を示したものである。

第5図は、酵母におけるウミホタル由来のルシフェラーゼの発現ベクターpGL1の作製方法を示したものである。

第6図は、大陽菌おけるウミホタル由来のルシフェラーゼの発現ベクターpMT-CLP、pMT-CLS、pMT-CLTの作製方法を示したものである。

発明を実施するための最良の形態

本発明のルシフェラーゼは、第1図に示される1番目から555番目までの555個のアミノ酸配列からなる蛋白質、または、第1図に示されるアミノ酸配列のうち、29番目のアミノ酸であるプロリンから始まる527個のアミノ酸配列からなる蛋白質、30番目のアミノ酸でのアミノ酸配列からなる蛋白質、31番目のアミノ酸であるセリンから始まる526個のアミノ酸配列からなる蛋白質、31番目のアミノ酸であるセリンから始まる525個のアミノ酸配列からなる蛋白質、もしくは32番目のスレオニンから始まる524個のアミノ酸配列からなる蛋白質である。さらに、本発明のルシフェラーゼは前記ルシフェラーゼと実質的に同等のルシフェラーゼ活

20

25

性が保持されているならば、前記アミノ酸配列の置換、 欠失、挿入等から構成される蛋白質、すなわちルシフェ ラーゼ同効物も本発明に含まれる。

本発明の遺伝子は、上記ルシフェラーゼをコードする 遺伝子であって、第1図の下段にDNA塩基配列で示し たものであるが、実質的に同等のルシフェラーゼ活性が 保持されているならば、塩基配列の置換、欠失、挿入等 から構成される塩基配列も本発明に含まれる。

本発明のルシフェラーゼをコードする遺伝子を得る方 法を説明する。まず、ウミホタルをグアニジンチオシア ネート中で破砕した破砕液から全RNAを抽出し、オリゴ(dT)セルロースカラムクロマトグラフィーにより ポリA+RNAを精製する。このポリA+RNAを出発 材料としてcDNAを合成後、入gt10にクローニン グしてcDNAライブラリーを作製する。

一方、ウミホタルより精製したルシフェラーゼ蛋白質のN末端近傍のアミノ酸配列、及びリジルエンドペプチダーゼ分解によって得られたオリゴペプチドのアミノ酸配列を決定し、それらに対応するヌクレオチド配列を有する数種類のオリゴヌクレオチドを化学合成し、上述のc DNAライブラリーのスクリーニングのためのプローブとして用いる。

プラークハイブリダイゼーション法によりこれらのプローブがハイブリッドを形成する組換え体の有する挿入 遺伝子の塩基配列の解析を行い、ルシフェラーゼ蛋白質

15

20

のアミノ酸配列と一致すれば、ルシフェラーゼ・タンパクをコードする遺伝子の一部であると同定できる。

さらに、本発明は動物細胞、酵母、大腸菌に代表される宿主細胞中で各々発現可能なプロモーターの下流に各々上記DNAを連結してなる組換えベクターDNA、そのベクターDNAにより宿主細胞を形質転換してなる形質転換体、及びそれらの形質転換体を用いたルシフェラーゼの生産方法を提供するものである。

具体的には、上述のようにして得られたウミホタル由 来のルシフェラーゼをコードする c D N A を、動物細胞、酵母、大腸菌中において各々安定に保持され、かつそれらの細胞中において発現可能なプロモーターを持つベクターD N A に連結し、本発明の組換え体ベクターD N A が得られる。

ここで、プロモーターとは、RNA合成酵素が認識結合してRNA合成を開始するための信号であり、その下流に位置するDNA配列がmRNAに転写される。したがって、ウミホタル由来のルシフェラーゼをコードする遺伝子がmRNAに転写されるためには、各々の細胞中で機能するプロモーターの下流に、ウミホタル由来のルシフェラーゼをコードする遺伝子が位置する必要がある。すなわち、ベクターDNAに含まれるプロモーターの下流の適当な位置にその認識配列の存在する適当な制限酵素によりベクターDNAを切断し、上記のルシフェラ

25 ーゼをコードする遺伝子を含むDNAを連結、挿入した

10

15

20

ものが用いられる。

ここで使用するプロモーターは、各々の宿主細胞中で 機能するものなら何でも良く、例えば動物細胞において は動物細胞遺伝子もしくは動物ウィルス遺伝子のプロモ ーター等があげられる。より具体的には、SV40の後 期プロモーター、チミジンキナーゼ遺伝子のプロモータ - SV40の初期プロモーター、サイトメガロウイル ス遺伝子のプロモーター等があげられる。酵母において は、酵母遺伝子のプロモーター等が用いられる。例えば、 酵母の抑制性酸性フォスファターゼ遺伝子(PHO5)、 ガラクトース代謝酵素遺伝子(GAL1)、αフェロモ ン遺伝子 (Μ F α 1) のプロモーター等が用いられる。 大腸菌においては、大腸菌遺伝子、ファージ遺伝子のプ ロモーター等が用いられる。例えば、大腸菌ラクトース 分解酵素の遺伝子(lac)のプロモーター、trp オペロンに由来するプロモーター、 λファージのP L プ ロモーター等があげられる。また、合成tacプロモー ターなども使用できる。

本発明で用いるベクターDNAは、各々の細胞中で安 定に保持され、その細胞中で機能するプロモーターを持 つものなら何でも良い。例えば、動物細胞では、プラス ミドベクター、ウイルスベクター等があげられるが、よ り具体的には、pSV2[SV40の初期プロモーター を持つ: J. Mol. Appl. Genet. USA、

1、327(1982)]、pSVL(SV40の後期 25

20

25

プロモーターを持つ:ファルマシア社製)、等があげられる。酵母においては、pMFα8[αフェロモン遺伝子(MFα1)のプロモーターを持つ:Gene、3、155(1985)]、pAM85[抑制性酸性フォスファターゼ遺伝子(PHO5)のプロモーターを持つ:Proc.Natl.Acad.Sci.USA、80、1(1983)]等があげられる。大腸菌においては、pMT-1[trp オペロンのプロモーターを持つ発現ベクターpKM6(特開昭61-247387号)由来]、pUC18/pUC19[Gene、33、103(1985)]等があげられる。

宿主細胞において機能する蛋白質分泌のためのシグナル配列をコードする塩基配列の下流に、ルシフェラーゼをコードする c D N A をつなぐことで、ルシフェラーゼを細胞外に生産させることができる。このシグナル配列に特に制限はなく、動物細胞においては、例えば、インターロイキン-2 (IL-2)のシグナル配列等があげられる。酵母においては、 α フェロモンのシグナル配列等があげられる。大腸菌の場合は、 β -ラクタマーゼのシグナル配列等があげられる。細胞内に生産させる場合は、シグナル配列を連結する必要はない。

宿主細胞として大腸菌を用い、細胞内にルシフェラーゼを生産させる場合には、発現させたい遺伝。 子がコードされる領域の5 末端にメチオニンをコードする塩基配列である"ATG"を付加し、大腸菌中で機

10

15

20

25

能するプロモーター及びSD配列の下流に連結する必要 がある。ここでいうSD配列とは、リボソームがmRN A上の同配列を認識、結合して、その下流にある"AT G"よりタンパク合成を開始するための信号である。ま た、メチオニンを付加するのは、分泌タンパクをコード している真核生物の遺伝子の多くは、分泌のためのシグ ナル配列の下流に本来のタンパクをコードしており、ま ずシグナル配列を含む形でポリペプチドの前駆体を合成 し、このタンパクが分泌される過程でシグナル配列が切 断除去されるため、最終的に生産されるタンパクのN末 端にはタンパク合成の開始信号として必須であるメチオ ニンの信号が付いていない場合が多いためである。また、 ウミホタルより精製した天然型のルシフェラーゼがセリ ン及びスレオニンの2種類のN末端を持つタンパクの混 合物であること、また、多くの真核生物ではシグナル配 列はアラニンーXーアラニン配列の次で切断され、ウミ ホタル・ルシフェラーゼの塩基配列より予想されるアミ ノ酸配列中にアラニンーグルタミン酸-アラニンープロ リンという配列が存在することから、本発明のベクター はN末端領域に関して、メチオニンの下流にプロリン、 セリン、またはスレオニンから始まるペプチドをコード する3種類の発現ベクターが用いられる。

前記各々の組換え体ベクターDNAにより動物細胞、 酵母、大腸菌に代表される宿主細胞を各々形質転換した 形質転換体とは、前記組換え体ベクターDNAを各々の

10

15

20

宿主細胞に導入することによって得られる。

本発明で使用される動物細胞としては特に制限はなく、例えば、COS-1細胞(アフリカミドリザル腎臓由来SV40形質転換細胞)、CHO細胞(チャイニーズハムスター卵巣由来)等があげられ、好ましくはCOS-1細胞が用いられる。本発明において使用される酵母としては特に制限はなく、例えば、Saccharomyces cerevisiae、Shizosaccharomyces pombe、Pichia pastoris等があげられる。本発明において使用される大腸菌に特に制限はなく、例えば、HB101、JM109等があげられる。

組換え体ベクターDNAを宿主細胞中に導入する方法に特に制限はないが、例えば、宿主細胞が動物細胞の場合は、DEAE-デキストラン法[Mol. Cell. Biol. 5、1188(1985)]、カルシウムーリン酸共沈法[Cell、14、725(1978)]、電気穿孔法[EMBO J. 1、841(1982)]等があげられる。中でも、DEAE-デキストラン法が好ましく用いられる。宿主細胞が酵母の場合は、プロトプラスト法[Proc. Natl. Acad. Sci. USA、75、1929(1978)]が好ましく用いられる。また、宿主細胞が大腸菌の場合は、好ましくは塩化カルシウム法[J. Mol. Biol. 53、154(1970)]が用いられる。

25 このようにして組換え体ベクターDNAを動物細胞、

15

20

25

酵母、大腸菌に代表される宿主細胞中に各々導入することにより、ウミホタル由来のルシフェラーゼをコードする遺伝子を含むDNAをベクターDNAに挿入した新規な組換え体ベクターDNA、さらにルシフェラーゼ生産能を有する形質転換体を得ることができる。

上記形質転換体を各々培地に培養し、培養物よりルシフェラーゼを得ることができる。培地としては、各々の培養に用いられるものであれば何でも良く、例えば、動物細胞の場合はダルベッコ変法イーグル培地等があげられ、酵母ではYEPD培地(20g/1 トリプトン/10g/1 酵母エキス/20g/ml グルコース)等があげられ、大腸菌ではL培地(10g/1 トリプトン/5g/1 酵母エキス/10g/1 塩化ナトリウム)等があげられる。

培養温度は各々の細胞が生育できる温度であれば何度でも良いが、例えば15~45℃が好ましく、さらに好ましくは動物細胞、大腸菌では25~40℃、より好ましくは30~37℃である。酵母では15~40℃、より好ましくは20~30℃である。培養時間にも特に制限はないが、通常1~10日間、好ましくは動物細胞、酵母では3~7日間、大腸菌では1~3日間である。

プロモーターがその発現に適当な誘導を必要とする場合、例えば、動物細胞におけるメタロチオネイン遺伝子のプロモーター、酵母における抑制性酸性フォスファターゼ遺伝子のプロモーター、大腸菌における t r p プ

25

ロモーター等を用いる場合では適当な誘導物質を加える、 適当な物質を除く、培養温度を変化させる、紫外線等を 照射する等、各々のプロモーターに応じた手段により、 培養中にプロモーターの発現に誘導をかけることができ る。具体的には、大腸菌において trp プロモーター を使用した場合、 trp オペロンの誘導物質である I AA (インドールアクリル酸)を培地に添加することに より、プロモーターの発現を誘導できる。

この際に、非誘導条件下で産生される微量のタンパク の存在が細胞の増殖等に悪影響を与える場合には、非誘 10 導下ではプロモーターの発現をできるだけ抑制しておく ことが好ましい。例えば、非誘導下では完全に発現の抑 制されるプロモーターを用いる、プロモーターの抑制遺 伝子と組み合わせる等があげられる。具体的には例えば、 trp プロモーターの場合、 trp オペロンの抑制 15 遺伝子を同一プラスミド上に持つ組換えプラスミドを用 いることが好ましい。この抑制方法としては、トリプト ファン リプレッサー遺伝子(trpR)[Nucleic Acids Res., 8, 1552 (198 0)]が用いられる。これらとは別に、前述のように、 20 生産されるタンパクを細胞外に分泌させる方法を用いる ことも可能である。

培養物は、適当な方法、例えば遠心分離等により培養 上清と細胞とに分け、その培養上清もしくは細胞抽出液 中のルシフェラーゼ活性をルミノメーター等を用いて検

15

20

出する。この培養上清もしくは細胞抽出液はそのままで も粗酵素液として使用可能であるが、必要により、例え ばF. I. Tsujiの方法 [Methods in Enzymol.、57、364(1978)]記載の 方法により精製して、純化されたルシフェラーゼを得る ことができる。

施 例 実

以下、実施例をあげて本発明をさらに詳細に説明する。 実施例1

c DNAライブラリーの作製 10

千葉県館山湾内で採集後、凍結保存したウミホタル5 gを6M グアニジン チオシアネート/5mM クエ ン酸ナトリウム(pH 7.0)/O. 5% ザルコシン酸ナト リウム溶液75mlに懸濁し、ポリトロンホモジナイザ - (キネマティカ社製)で破砕した。塩化リチウム溶液 (アマシャム社製キット)を加え、塩化リチウム共沈法 によって約600 µgのRNAを得た。このうち300 μgのRNAをオリゴ (dT) セルローカラム (コラボ レイティブ リサーチ社製)クロマトグラフィーによっ て精製し、約15μgのポリ(A) + RNAを得た。こ のうち2μgからcDNA合成キット(ライフ テクノ ロジーズ社製)を用いて1µgの2本鎖DNAを得た。 このうちの 0.15μ gをEcoRIメチラーゼで処 理してEcoRI切断部位を保護し、T4 DNA リ ガーゼを用いてEcoRI リンカーを結合した。さら 25

オリゴヌクレオチド・プローブの作製

F. I. Tsujiの方法 [Methods Enzymol.、57、364(1978)]で精製 10 したウミホタル·ルシフェラーゼ100 µgを凍結乾燥 した後、100μlの8M 尿素/0.1M トリス塩 酸(pH 7.6)/O. 14M 2-メルカプトエタノールに 溶解して、37℃で3時間保温して-SH基をピリジル エチル化した。これに200μ1の0.11M トリス 15 塩酸(pH 9.0)、1μlの2-メチルメルカプトエタノー ル、1μ1の2μg/μ1 リジルエンドペプチダーゼ (和光純薬社製)を加えて、37℃で1時間消化した。 これをVYDAC 218 TP54(C18)(VYD AC社製)のHPLCにかけ、オリゴペプチドを分離し 20 た。得られたオリゴペプチドのうち13個について、ア ミノ酸シークエンサー470A(アプライド バイオシ ステムズ社製)を用いてN末端のアミノ酸配列を解析し たところ、以下の13個のアミノ酸配列を得た。

フラグメント12-2 Val-Ser-His-Arg-Asp-()-Glu PCT/JP89/00811

15

10

フラグメント13

1 5

Ala-Arg-Tyr-Gln-Phe-Gln-Gly-Pro-Met-Lys (Cys)

5

WO 90/01542

フラグメント18

1 5 9

Arg-Phe-Asn-Phe-Gln-Glu-Pro-Gly-Lys

10 フラグメント21

1 5 10

Arg-Asp-Ile-Leu-Ser-Asp-Gly-Leu-Cys-Glu-

11 15

15 Asn-Lys-Pro-Gly-Lys

フラグメント23

1 5 10

Gly-Gln-Gln-Gly-Phe-Cys-Asp-His-Ala-Trp-

20

Glu-Phe-Lys

13

フラグメント27

Glu-Phe-Asp-Gly-Cys-Pro-Phe-Tyr-Gly-Asn-

Pro-Ser-Asp-Ile-Glu-Tyr-Cys-Lys

フラグメント38

10 Gly-Gly-Asp-()-Ser-Val-Thr-Leu-Thr-Met-

15 .

Glu-Asn-Leu-Asp-Gly-Gln-Lys

フラグメント40

His-Val-Leu-Phe-Asp-Tyr-Val-Glu-Thr-Cys-

Ala-Ala-Pro-Glu-Thr-Arg-Gly-Thr-Cys-Val-

 $\label{leu-Ser-Gly-His-Thr-Phe-Tyr-Asp-Thr-Phe} Leu-Ser-Gly-His-Thr-Phe-Tyr-Asp-Thr-Phe$

フラグメント47

1 5 10 Glu-Leu-Leu-Met-Ala-Ala-Asp-Cys-Tyr-()-

5 11 15 16
Asn-Thr-()-Asp-Val-Lys

フラグメント50

1 5 10
10 ()-Leu-Met-Glu-Pro-Tyr-Arg-Ala-Val-Cys-

11 15 20 ()-Asn-Asn-Ile-Asn-Phe-Tyr-Tyr-Thr

15 次に上記の13種のアミノ酸配列のうち下記の5種に 対するオリゴヌクレオチドをDNA合成装置(アプライ ド バイオシステムズ社製)を用いて作製した。なお塩 基配列中のIは、デオキシイノシンを示す。

プロープ I (フラグメント27の1~6番のアミノ酸配列に対応)

Glu-Phe-Asp-Gly-Cys-Pro

GAA TTT GAT GGT TGT CCT

G C C C C

A ...

_G G

G

3'-CTT AAA CTA CCI ACA GG-5'

 \mathbf{G}

10

15

5

プローブ II (フラグメント23の6 \sim 10番のアミノ 酸配列に対応)

Cys-Asp-His-Ala-Trp

TGT GAT CAT GCT TGG

C C C C

A

G

20

C

3'-ACA CTA GTA CGI ACC-5'

G G G

プローブⅢ (フラグメント 4 7 の 4 ~ 9 番のアミノ酸配列に対応)

C

Met-Ala-Ala-Asp-Cys-Tyr

ATG GCT GCT GAT TGT TAT

C C C C

A A

G G

3'-TAC CGI CGI CTA ACA AT-5'

G G

10

5

プローブIV (フラグメント50の3~7番のアミノ酸配列に対応)

15 Met-Glu-Pro-Tyr-Arg

ATG GAA CCT TAT CGT

G C C C

A A

 \mathbf{G}

AGA

G

3'-TAC CTT GGI ATA TC-5'

C

GG

25

20

プロープV (フラグメント13の1~10番のアミノ 酸配列に対応)

Ala-Arg-Tyr-Gln-Phe-Gln-Gly-Pro-Met-Lys
GCT CGT TAT CAA TTT CAA GGT CCT ATG AAA

CC C C G C G C C G

A A A

G - G

AGA

G

10

3'-CGI GCI ATA GTT AAA GTT CCI GGI TAC TTT-5'

T G C G C

15

以上の5種のオリゴヌクレオチド各々1μgを、10μ1の50mM トリス塩酸(pH 7.6)/10mM 塩化マグネシウム/5mM ジチオスレイトール/1mM スペルミジン/100mM 塩化カリウム に溶解し、5μ1の[γ-³²P] ATP (3000Ci/mmol;アマシャム社製)、85μ1の蒸留水、2μ1のT4 ポリヌクレオチド キナーゼ(宝酒造社製)を添加して、37℃で1時間反応して³²P標識した。

実施例3

プラークハイブリダイゼーション法による c D N A ラ イブラリーのスクリーニング

実施例1で作製した cDNAライブラリーを用いて、 50枚の寒天プレートに1枚当たり約1万個のプラーク を出現させた。このプラークをナイロン・メンプレンに 移し取り、O. 5 M 水酸化ナトリウム/1.5 M 塩 化ナトリウム溶液中でDNAを変性させた後、O. 5 M トリス塩酸(pH 7.0)/1. 5 M 塩化ナトリウム溶液中 で中和した。このメンブランを80℃で2時間保温して、 10 ファージDNAをメンプラン上に固定した後、50mM リン酸ナトリウム(pH 7.4)/O. 75M 塩化ナトリウ ム/5×デンハルト溶液(O.1% 牛血清アルブミン /0.1% フィコール/0.1% ポリビニルピロリ ドン) / 5 m M E D T A / 0. 1% S D S / 100 15 μg/ml 変性サケ精子DNA溶液中で45℃で2時 間保温してプレハイブリダイゼーションを行った。

次に、新たな同溶液中にメンブランを移し、5 μ C i /m 1 となるように実施例2で標識したオリゴヌクレオ 20 チドプローブ V を添加して、45℃で一夜保温してハイ ブリダイゼーションを行った。約16時間後、6×SS C [90 m M クエン酸ナトリウム(pli 7.0)/0.9 M 塩化ナトリウム]/0.1% SDSを用いて室温下で 30分間ずつ2回、次に45℃で30分間ずつ2回メン ブランの洗浄を行った。このメンブランを風乾した後、

 $X - OMAT^{TM}AR$ フィルム(コダック社製)を用いて、 $-70^{\circ}C$ 、48時間オートラジオグラフィーを行った。

フィルムを現像し、32個の陽性クローンを得た。寒 天プレート上のこれらの陽性クローンよりファージを増 殖させ、ファージDNAを精製した。DNAは-20℃ で保存した。

実施例4

ルシフェラーゼ蛋白質と遺伝子の1次構造の比較

実施例3で得られた32個の陽性クローンのうち、最大の約1900塩基対の挿入断片を含むクローンACL07より挿入断片を制限酵素 EcoRIで切り出し、プラスミド p U C 18にサブクローニングし、組換え体プラスミド p C L 07を作製した(第2図)。この1.9kbの EcoRI断片の塩基配列の決定は、通常のジデオキシ法を用いて行った。決定された塩基配列を第1図に示す。

得られた遺伝子の情報と、実施例2で得られた蛋白質の情報とを比較することにより、第1表に示すように蛋白質と遺伝子の1次構造を対応させることができた。その結果、第1図に示すようにウミホタル由来のルシフェラーゼの遺伝子の塩基配列が特定され、また該蛋白質のアミノ酸配列を規定することができた。

第1表、アミノ酸配列と遺伝子の1次構造との対応(その1)

アミノ酸配列の解析の結果	遺伝子1次構造との対応
フラグメント7-1	Thr-Cys-Gly-Ile-Cys-Gly-Asn-Tyr-Asn-Gl
Thr-Cys-Gly-Ile-Cys-Gly-Asn-Tyr-Asn-Gln	ACA TGC GGC ATA TGT GGT AAC TAT AAT CA
フラグメント7-2	Glu-Gly-Glu-Cys-Ile-Asp-Thr-Arg-Cys-Al
Glu-Gly-Glu-Cys-Ile-Asp-Thr-Arg-Cys-Ala-	GAA GGA GAA TGT ATC GAT ACC AGA TGC GC
Thr-Cys-Lys	Thr-Cys-Lys ACA TGT AAA
フラグメント12-1	Cys-Asn-Val-Cys-Tyr-Lys-Pro-Asp-Arg-Il
Cys-Asn-Val-Cys-Tyr-Lys-Pro-Asp-Arg-Ile-	TGT AAT GTC TGC TAC AAG CCT GAC CGT AT
Ala	Ala GCA
フラグメント12-2	Val-Ser-His-Arg-Asp-()-Glu
Val-Ser-His-Arg-Asp-()-Glu	GTT TCA CAT AGA GAT GTT GAG
フラグメント13	Ala-Arg-Tyr-Gln-Phe-Gln-Gly-Pro-Met-Ly
Ala-Arg-Tyr-Gln-Phe-Gln-Gly-Pro-Met-Lys	(Cys)
(Cys)	GCC AGA TAI CAA TIC CAG GGC CCA TGC AA
フラグメント18	Arg-Phe-Asn-Phe-Gln-Glu-Pro-Gly-Lys
Arg-Phe-Asn-Phe-Gln-Glu-Pro-Gly-Lys	AGA TTT AAT TTT CAG GAA CCT GGT AAA
フラグメント21	Arg-Asp-Ile-Leu-Ser-Asp-Gly-Leu-Cys-Gl
Arg-Asp-Ile-Leu-Ser-Asp-Gly-Leu-Cys-Glu-	CGA GAC ATA CTA TCA GAC GGA CTG TGT GA
Asn-Lys-Pro-Gly-Lys	Asn-Lys-Pro-Gly-Lys AAT AAA CCA GGG AAG
・ フラグメント23 Gly-Gln-Gly-Phe-Cys-Asp-His-Ala-Trp-	Gly-Gln-Gln-Gly-Phe-Cys-Asp-His-Ala-Tr GGA CAG CAA GGA TTC TGT GAC CAT GCT TG
Glu-Phe-Lys	Glu-Phe-Lys GAG TTC AAA

第1表、アミノ酸配列と遺伝子の1次構造との対応(その2)

アミノ酸配列の解析の結果	遺伝子1次構造との対応
フラグメント27 Glu-Phe-Asp-Gly-Cys-Pro-Phe-Tyr-Gly-Asn-	Glu-Phe-Asp-Gly-Cys-Pro-Phe-Tyr-Gly-Asn- GAG TTC GAC GGC TGC CCA TTC TAC GGG AAT
Pro-Ser-Asp-Ile-Glu-Tyr-Cys-Lys	Pro-Ser-Asp-Ile-Glu-Tyr-Cys-Lys CCT TCT GAT ATC GAA TAC TGC AAA
フラグメント38	
Gly-Gly-Asp-()-Ser-Val-Thr-Leu-Thr-Met-	Gly-Gly-Asp-()-Ser-Val-Thr-Leu-Thr-Met- GGT GGC GAC TGG TCT GTA ACC CTC ACC ATG
Glu-Asn-Leu-Asp-Gly-Gln-Lys	Glu-Asn-Leu-Asp-Gly-Gln-Lys GAG AAT CTA GAT GGA CAG AAG
フラグメント40	
His-Val-Leu-Phe-Asp-Tyr-Val-Glu-Thr-Cys-	His-Val-Leu-Phe-Asp-Tyr-Val-Glu-Thr-Cys- CAC GTC CTT TIC GAC TAT GTT GAG ACA TGC
Ala-Ala-Pro-Glu-Thr-Arg-Gly-Thr-Cys-Val-	Ala-Ala-Pro-Glu-Thr-Arg-Gly-Thr-Cys-Val- GCT GCA CCG GAA ACG AGA GGA ACG TGT GTT
Leu-Ser-Gly-His-Thr-Phe-Tyr-Asp-Thr-Phe	Leu-Ser-Gly-His-Thr-Phe-Tyr-Asp-Thr-Phe TTA TCA GGA CAT ACT TTC TAT GAC ACA TTC
フラクメント47 Glu-Leu-Leu-Met-Ala-Ala-Asp-Cys-Tyr-()-	Glu-Leu-Leu-Met-Ala-Ala-Asp-Cys-Tyr-()- GAG CTT CTG ATG GCC GCA GAC TGT TAC TGG
Asn-Thr-()-Asp-Val-Lys	Asn-Thr-()-Asp-Val-Lys AAC ACA TGG GAT GTA AAG
フラグメント50	,
()-Leu-Yet-Glu-Pro-Tyr-Arg-Ala-Val-Cys-	()-Leu-Het-Glu-Pro-Tyr-Arg-Ala-Val-Cys- GGT CTC ATG GAG CCA TAC AGA GCT GTA TGT
()-Asn-Asn-Ile-Asn-Phe-Tyr-Tyr-Tyr-Thr	()-Asn-Asn-Ile-Asn-Phe-Tyr-Tyr-Tyr-Thr CGT AAC AAT ATC AAC TTC TAC TAT TAC ACT

実施例5

SV40後期プロモーターを有する発現ベクターpS VLへのルシフェラーゼcDNAの挿入

実施例4で得られたウミホタル由来のルシフェラーゼ をコードする前記の1. 9kbのEcoRI断片1μg 5 に各々1. 5mMのdATP, dTTP, dCTP及び dGTPの存在下に、5ユニットの大腸菌DNA ポリ メラーゼ I ラージ フラグメント(宝酒造社製)を 作用させ、末端を修復した。また、ベクターのpSVL (SV40後期プロモーターを持つ発現ベクター:ファ 10 ルマシア社製)は、制限酵素SmaIにより分解した。 ついで末端を修復した1. 9 k b 断片(0. 3 μg) とpSVLのSmaI分解物(0.1µg)とをT4 DNA リガーゼによって結合し、その反応液を用いて 大腸菌HB101コンピテント細胞(宝酒造社製)の形 15 質転換を行い、この1.9kb断片の組み込まれた組換 え体プラスミドを得、pSVLCL5と命名した(第3 図)。

実施例6

25

20 <u>COS-1細胞によるウミホタル由来のルシフェラー</u> ゼの生産

ルとして $pSVL(10\mu g)$ を同様にしてCOS-1細胞に導入した。

これらの細胞を25 cm² の培養フラスコ中で、10% 牛胎児血清を含むダルベッコ変法イーグル培地(日水製薬社製)10mlを用いて5% CO₂の存在下、37℃で5日間培養した。培養途中及び培養終了後、培養液1mlを採取し、3,000rpm、10分間、4℃で遠心して、その上清を集め、培養上清とした。

また、培養終了後、細胞はトリプシン処理によって培 10 養フラスコからはがした後、1mlのPBS(-)(日 水製薬社製)で洗浄し、3,000rpm、10分間、 4℃で遠心し上清を捨てた。これをさらに2回繰り返し、 200μlのPBS(-)に懸渇した。凍結融解を3回 繰り返し、細胞抽出液とした。

15 実施例7

20

25

動物細胞により生産されたルシフェラーゼの活性測定 実施例 6 に示した培養上清中のルシフェラーゼ活性の 測定は、下記の方法によって行い、その結果を第2表に 示した。すなわち、30μ1の培養上清に270μ1の 測定用緩衝液 [100mM リン酸ナトリウム(pH 7.0) / 200mM 塩化ナトリウム]を混合した。2μ1の 33μM ウミホタル・ルシフェリンを混合し、発生するフォトン数を直ちにルミノメーター(Lumac L 2010)を用いて30秒間計測した。発光強度は1秒 当たりの平均フォトン数として示した。コントロールと

してpSVLを導入したCOS-1細胞の培養上清についても同様にして発生するフォトン数を計測した。

実施例 6 に示した細胞抽出液中のルシフェラーゼ活性は、下記に記載した方法により行い、その結果も第2表に示した。すなわち実施例 6 で作製した細胞画分の 10 μ 1 \pm 2 \pm 9 0 μ 1 \pm 1 \pm

10

. 5

第2表

		ルシフェラーゼ活性 (×10 ⁵ cps/ml)						
		細胞外						
15	プラスミド	24時間	48時間	72時間	96時間	120時間	120時間	
	(a) pSVLCL5 (No. 1)	2.2	4.0	4.3	4.6	5.2	1.2	
	(b) pSVLCL5 (No. 2)	2.3	5.8	8.3	9.0	10.5	3.0	
	(c) pSVLCL5 (No. 3)	2.1	3.1	3.8	4.1	5.5	8.0	
20	(d) pSVLCL5 (No. 4)	2.3	4.0	5.5	5.7	6.7	1.4	
	(e) pSVL (コントロール)	2.0	2.5	2.3	2.3	2.1	0.2	

実施例8

酵母発現ベクター用オリゴヌクレオチドの合成とアニ ーリング

(1) ウミホタルより精製した天然型のルシフェラー 第1図に示したアミノ酸配列の第31番目のア 5 ゼが、 ミノ酸であるセリンと第32番目のアミノ酸であるスレ オニンのN末端を持つ2種類のペプチドの混合物である こと、(2)cDNAより推定されるルシフェラーゼの アミノ酸配列のN末端に、タンパクの分泌のためのシグ ナル配列の特徴を持つアミノ酸配列が存在すること、 10 (3)多くの真核生物ではシグナル配列はアラニン-X - アラニン配列の次で切断されるが、ウミホタルのルシ フェラーゼにおいてもアラニン-グルタミン酸-アラニ ンープロリンの配列が存在すること等の理由により、第 1 図に示したウミホタル由来のルシフェラーゼのアミノ 15 酸配列中の第29番目のアミノ酸であるプロリン(YP 型)、第30番目のアミノ酸であるセリン(YN型)、 第31番目のアミノ酸であるセリン(YS型)、第32 番目のアミノ酸であるスレオニン(YT型)から始まる ルシフェラーゼ・タンパクを作製し、酵母のαフェロモ 20 ンのシグナル配列の下流に連結するために、以下の10 本のオリゴヌクレオチドを合成した。

•	Y P - 1	5'-CCTTCAAGTACTCCA-3'
	YP-2	5'-CTGTTGGAGTACTTGAAGG-3'
	YS-1	5'-AGTACACCA-3'
	YS-2	5'-CTGTTGGTGTACT-3'
5	Y T - 1	5'-ACTCCA-3'
	YT-2	5'-CTGTTGGAGT-3'
	YN-1	5'-TCGTCGACACCA-3'
	YN-2	5'-CTGTTGGTGTCGACGA-3'
	U - 1	5'-ACAGTCCCAACATCTTGTGAAGCTAAAGAAGGAG
10		AATGTAT-3'
	U - 2	5'-CGATACATT CTCCTTCTTTAGCTT CACAAGATGT
•		TGGGA-3'

合成オリゴヌクレオチドYP-2、YS-2、YT-15 2、YN-2、U-2の5本については、5'末端をT 4 DNA キナーゼによってリン酸化した。すなわち、 各オリゴヌクレオチド300pmolを各々20µlの 反応液 [50mM トリス塩酸 (pH 7.6) / 10mM 塩化マグネシウム/0. 1 m M スペルミジン/5 m M 20 ジチオスレイトール/O. 1 mM EDTA]中でT4 DNA キナーゼ (宝酒造社製)10ユニットを用いて、 37℃で1時間反応させ、70℃で5分間加熱した後、 - 20℃で保存した。 各オリゴヌクレオチドのアニーリングは次のように行

った。YP型ではYP-1、リン酸化したYP-2、U-1、及びリン酸化したU-2を、YS型にはYS-1、リン酸化したYS-2、U-1、及びリン酸化したU-2を、YT型にはYT-1、リン酸化したYT-2、U-1、及びリン酸化したU-2を、YN型にはYN-1、リン酸化したYN-2、U-1、及びリン酸化したU-2を、各々50pmolずつ混合し、70℃で5分間加熱後、インキュベーターの電源を切り42℃になるまで放置した。

10 実施例 9

酵母αフェロモン遺伝子のプロモーターを有する発現ベクター p M F α 8 へのルシフェラーゼ c D N A の 挿入ウミホタル・ルシフェラーゼ c D N A 中に存在する制限酵素 C I a I 切断部位に実施例 8 に示した合成オリゴマーを組み込み、5 ** 末端に S t u I 部位を持ち、N 末端 2 8、2 9、3 0、3 1 個のアミノ酸を削ったルシフェラーゼ c D N A を作製した。

酵母の発現ベクター p M F α 8 [Gene、3、155(1985): ATCC 37418]は、αフェロ セン遺伝子のリーダー配列をコードする領域の直後を制限酵素 S t u I で切断し、上述のルシフェラーゼ c D N Aを挿入した。作製した発現ベクターは、各々 p M E F 3 A (Y P 型)、 p M E F 3 B (Y S 型)、 p M E F 3 C (Y T 型)、 p M E F 3 D (Y N 型)と命名した(第 4 a 図)。

15

20

作製した各々の発現ベクターのαフェロモン遺伝子/ルシフェラーゼ c D N A 内の配列である5, - T A T A A A T G G T C C A A G G A - 3, をプライマーとして、通常のジデオキシ法によって、正しく挿入されていることを確認した。p M F E 3 A、p M F E 3 B、p M F E 3 C、及びp M F E 3 Dにおけるαフェロモン遺伝子/ルシフェラーゼ c D N A の接続部位近傍の塩基配列、及びアミノ酸配列は第4 b 図に示した。

10 実施例10

酵母GAL1遺伝子のプロモーターを有する発現ベク ターp103へのルシフェラーゼ c DN Aの挿入

実施例3で得た λ CLO7より、1.3kb、0.6kbの2つのEcoRI断片を各々プラスミドpUC18にサブクローニングし、プラスミドpCLO712、pCLO742を作製した。pCLO7(1 μ g)、及びpCLO712(1 μ g)をHindIIIとBgIIIで切断し、pCLO7よりルシフェラーゼのN末端を含むDNA断片を精製した。この2断片をプラスミドpSPT18(ベーリンガーマンハイム社製)のHindIII部位にサブクローニングし、得られた組換え体プラスミドをpSTCL81と命名した。.

次に、この $pSTCL81(1\mu g)$ をBamHIで 25 切断し、クローニングした全cDNA配列をBamHI

10

15

20

断片として回収した。

一方、酵母のGAL1プロモーターを持つ発現ベクターp103 [Saccharonyces cerevisiaeのGAL1プロモーター $\{Mo1. Cell. Biol. 、 4、1440(1984)\}$ の下流に、BamHI 切断部位を含むポリリンカーを持つ:大阪大学・原島 俊 助教授より供与された]約0.1 μ gをBamHIで切断し、T4DNA リガーゼを用いて前記のCDNA 断片約0.1 μ gと連結し、GAL1プロモーターの下流にルシフェラーゼCDNA の挿入された発現ベクターpGL1 を作製した(第5図)。

実施例11

酵母によるウミホタル由来のルシフェラーゼの生産 実施例9において作製した発現ベクターpMFE3A、 pMFE3B、pMFE3C、pMFE3D各々10μ gをプロトプラスト法[Proc. Natl. Acad. Sci. USA、75、1929(1978)]によっ て酵母Saccharomyces cerevisiae 20B-12株[Gene、 37, 155(1985)]株に導入した。

これらの形質転換体を11の培養フラスコ中で100mlのYEPD培地を用いて30℃で3日間培養した。 培養途中及び培養終了後、培養液5mlを採取し、4℃、10分間、3,000rpmで遠心して、その上清を集め培養上清とした。

25 また培養液1m1分の菌体は5m1の減菌蒸留水で洗

20

25

浄後、1 m l の 5 0 m M リン酸ナトリウム(pH 7.5)/ 0.1% TritonX-100に懸濁した。1 m l のガラス・ピーズ(直径0.45 m m) 懸濁液を加え、 0℃で、時々ミキサーで激しく攪拌しながら5分間放置 した。軽く遠心してガラス・ピーズを分離し、上清はさらに1.5 m l のエッペンドルフ チューブに移し、5 分間、15,000 r p m で遠心した。この上清を菌体 抽出液とした。

実施例12

酵母によるウミホタル由来のルシフェラーゼの生産実施例10で作製した発現ベクターpGL1(10μg)は、実施例11と同様にプロトプラスト法によって酵母Saccharomyces cerevisiae YSH2676株((a) ura3-52 leu2-3 leu2-112 trpl pho3 pho5 hisl-29)株に導入した。

この形質転換体を11の培養フラスコ中で100m1の培地 (1% 酵母エキス/2% ペプトン/2% ガラクトース)を用いて30 C で2 日間培養した。培養途中及び培養終了後、培養液5m1を3,000 rpm、10分間、<math>4 C で遠心して、その上清を集め、培養上清とした。

また、菌体抽出液も実施例11と同様にして調製した。 実施例13

酵母により生産されたルシフェラーゼの活性測定 実施例11に示した培養上清中のルシフェラーゼ活性 の測定は、実施例7に記載した動物細胞の培養上清のルシフェラーゼ活性の測定と同様にして行い、その結果を第3表に示した。コントロールとして、 $pMF\alpha8$ を導入したS. cerevisiae 20B-12株の培養上清についても同様にして発生するフォトン数を計測した。

実施例11に示した酵母細胞中のルシフェラーゼ活性は、下記に記載した方法により行い、その結果も第3表に示した。すなわち、実施例11で作製した細胞抽出液 $10\mu1$ を290 $\mu1$ の上記測定用緩衝液と混合し、さらに $2\mu1$ の33 μ M ウミホタル・ルシフェリンを混合し、培養上清の場合と同様にしてルシフェラーゼ活性を測定した。

第3表

		ルシフェラーゼ活性 (×10 ⁵ cps/ml)					
プラスミド		12時間	21時間	38時間	47時間	64時間	
(a) pMFE3A	菌体内 菌体外	<0.01 0.05	<0.01 0.02	0.01 4.84	0:02 13.47	0.01 2.11	
(b) pMFE3B	菌体内 菌体外	<0.01 0.06	<0.01 0.20	0.02 6.22	0.01 2.73	<0.01 1.02	
(c) pMFE3C	菌体内 菌体外	<0.01 0.10	<0.01 0.21	0.02 2.76	0.01 0.79	0.01 0.89	
(d) pMFE3D	菌体内 菌体外	<0.01 0.06	<0.01 0.21	0.02 3.97	0.01 0.76	0.01 1.02	
(e) control	菌体内 菌体外	<0.01 0.06	<0.01 0.04	<0.01 0.05	0.01 0.06	<0.01 0.11	

実施例14

酵母により生産されたルシフェラーゼの活性測定

実施例12に示した培養上清中のルシフェラーゼ活性の測定は、実施例7に記載した動物細胞の培養上清のルシフェラーゼ活性の測定と同様にして行い、その結果を第4表に示した。コントロールとして、p103を導入したS. cerevisiae YSH2676株の培養上清についても同様にして発生するフォトン数を計測した。

実施例12に示した酵母細胞中のルシフェラーゼ活性 10 は、実施例13と同様にして行い、その結果を第4表に 示した。

第4表

		ルシフェラー	ビ活性(×10 ⁵ c	ps/ml)
クローンNο.		20時間	43時間	51時間
(a) No. 1	菌体内	0.06	0.07	0.07
	菌体外	0.53	7.28	7.71
(b) No. 2	菌体内	0.04	0.06	0.07
	菌体外	0.44	3.04	3.49
(c) No. 3	菌体内	0.07	0.07	0.06
	菌体外	0.40	3.00	4.70
(d) No. 4	菌体内	0.05	0.10	0.09
	菌体外·	0.92	5.89	6.27
(e) No. 5	菌体内	0.06	0.08	0.05
	菌体外	0.50	2.52	2.47
(f) contro	1 菌体内	0.01	n.t.	n.t.
	菌体外	0.08	0.13	0.03

実施例15

<u>大陽菌発現ベクター用オリゴヌクレオチドの合成とア</u> ニーリング

大腸菌トリプトファン合成遺伝子(trp)オペロンのプロモーターとSD配列の下流にメチオニンープロリン(EP型)、メチオニンーセリン(ES型)、メチオニンースレオニン(ET型)で開始される該ルシフェラーゼの発現ベクターを作製するために、以下の6本のオリゴヌクレオチドを合成した。

10

25

5

EP-1 5'-CGATGCCGTCAAGTACACCA-3'

EP-2 5'-CTGTTGGTGTACTTGACGGCAT-3'

ES-1 5'-CGATGAGTACACCA-3'

ES-2 5'-CTGTTGGTGTACTCAT-3'

15 E T - 1 5'-CGATGACACCA-3'

E T -2 5'-CTGTTGGTGTCAT-3'

合成オリゴヌクレオチドEP-2、ES-2、ET-2、及び実施例8のU-2の各々300pmo1は、実 20 施例8と同様にしてN末端をT4 DNA キナーゼを 用いてリン酸化し、-20℃で保存した。

各オリゴヌクレオチドは、EP型ではEP-1、リン酸化したEP-2、U-1、及びリン酸化したU-2を、ES型にはES-1、リン酸化したES-2、U-1、及びリン酸化したU-2を、ET型にはET-1、リン

25

酸化したET-2、U-1、及びリン酸化したU-2を A = 50 pm o 1 ずつ混合し、実施例8 と同様にしてア ニーリングした。

実施例16

5 <u>大腸菌 t r p プロモーターを有する発現ベクター</u> p M T 1 へのルシフェラーゼ c D N A の挿入

大腸菌トリプトファン オペロン (trp) のプロモーター及びSD配列を持つ発現ベクターpMT-1[pKM6(特開昭61-247387号)由来]は、制限酵素 SmaI、CIaIとPvuIIで切断した。

一方、実施例3で作製した発現ベクターpCL07を SmaIとClaIで切断し、ClaIより下流のルシ フェラーゼcDNAを含むDNA断片をアガロースゲル 電気泳動法により分離、精製した。

pMT-1の切断断片とpCLO7の精製断片の各々 $O.1\mu$ gをT4 DNA Jガーゼ(宝酒造社製)を 用いて連結し、再び制限酵素 <math>SmaIで切断した後、市 販の大腸菌HB1O1コンピテント細胞(宝酒造社製)を形質転換し、プラスミドpMT-CLO7を作製した。 COプラスミドは、CDプロモーター/CDD配列の

20 このプラスミドは、t r p プロモーター/ S D 配列の下流にC I a I 部位より下流のルシフェラーゼc D N A を持つ。

このpMT-CLO7を制限酵素CIaIで切断し、その $O.1\mu g$ と実施例15で作製した合成DNAの5 μ 1とをT4 DNA リガーゼで連結し、trp プ

10

ロモーター/SD配列の下流に、メチオニンープロリン (EP型)、メチオニンーセリン(ES型)、メチオニ ンースレオニン(ET型)で開始される該ルシフェラー ゼ遺伝子を持つ発現ベクターを作製した。作製したプラ スミドは各々、pMT-CLP、pMT-CLS、及び pMT-CLTと命名した。

作製した各々の発現ベクターのSD配列/ルシフェラーゼの接続部位近傍の塩基配列は、ルシフェラーゼ c D N A内の配列である5′-TATAAATGGTCCA AGGA-3′をプライマーとして、通常のジデオキシ法によって、正しく挿入されていることを確認した。

pMT-CLP、pMT-CLS、pMT-CLTの 制限酵素地図と確認した塩基配列を第6図に示す。 実施例17

大陽菌によるウミホタル由来のルシフェラーゼの生産実施例16で作製した発現ベクターを用いて大陽菌HB101株を形質転換し、得られた形質転換体を5mlの上培地(アンピシリン:100mg/1を含む)で1晩、37℃で静置培養した。翌日培養液の1m1を採取し、50m1の合成培地[2×M9-カザミノ酸培地(6g/1 リン酸二水素カリウム/12g/1 リン酸水素二ナトリウム/10g/1 カザミノ酸/10g/1 塩化ナトリウム/1g/1 塩化アンモニウム/)/1mg/1 塩酸チアミン/250mg/1 硫酸マプネシウム/1% グルコース/100mg/1 アン

10

ピシリン]に懸濁し、25℃で1晩振盪培養した。翌朝、培養液にIAA(最終濃度20mg/1)とグルコース(最終濃度1%)を加え、12.5%のアンモニア水でpHを7.5に調整して、25℃で3時間培養を続けた。3時間後、IAA、グルコース、アンモニア水を同様にして加え、さらに3時間培養を続けた。培養終了後、培養液8m1を遠心して集菌し、菌体を0.5m1のTE緩衝液[10mMトリス塩酸(pH 8.0)/1mM EDTA]に懸濁した。42℃の温水とドライアイス・アセトン液を用いて凍結融解を3回繰り返して溶菌後、10分間、10,000mmで遠心し、その遠心上清を粗酵素液とした。

実施例18

大腸菌により生産されたルシフェラーゼの活性測定

実施例17で作製した粗酵素液中のルシフェラーゼ活性の測定は、下記に記載した方法によって行い、その結果を第5表に示した。すなわち、150μ1の粗酵素液に150μ1の前記測定用緩衝液、2μ1の33μΜウミホタル・ルシフェリンを混合し、発生するフォトン数を30秒間計測し、その結果を第5表に示した。コントロールとしてpMT-CLR(合成DNAが逆方向に挿入されたプラスミド)を導入した大腸菌HB101についても同様にして発生するフォトン数を計測した。

第5表

プラスミド	ルシフェラーゼ活性 (c p s)
(a) pMT-CLP	1200
(b) pMT-CLS	870
(c) pMT-CLT	540
(d) pMT-CLR (control)	200

20

25

5

産業上の利用可能性

ウミホタル由来のルシフェラーゼは非常に発光強度の 強い発光系であり、抗体分子を本酵素と結合させてEI A (酵素抗体アッセイ法)に、また、DNA/RNA分 子と本酵素とを結合させてDNAプローブ法に利用する など、各種検査法への利用が期待できる。

本発明によって、ウミホタル由来のルシフェラーゼを コードするcDNAの1次構造が特定され、同時に該ル シフェラーゼの1次構造が明らかになった。さらに、本 発明にあるルシフェラーゼの発現ベクターを持つ動物細 胞、酵母、大腸菌の大量培養により、該ルシフェラーゼ を安定的に生産させる方法が開かれ、該ルシフェラーゼ を安価で大量に得ることができるようになるものと期待

される。

また、プロテイン・エンジニアリングの手法を用いて、 該ルシフェラーゼの安定性の増加、発光量子収率の改善、 発光条件の改善、発光波長の変更等を行う方法が開かれ た。

10

5

15

20

25

請求の範囲

- (1)第1図に示す1番目から555番目に至るアミノ 酸配列を有する純化されたルシフェラーゼ及びその 同効物。
- 5 (2)第1図に示す29番目から555番目に至るアミノ酸配列を有する純化されたルシフェラーゼ及びその同効物。
 - (3)第1図に示す30番目から555番目に至るアミノ酸配列を有する純化されたルシフェラーゼ及びその同効物。
 - (4)第1図に示す31番目から555番目に至るアミノ酸配列を有する純化されたルシフェラーゼ及びその同効物。
- (5)第1図に示す32番目から555番目に至るアミ力酸配列を有する純化されたルシフェラーゼ及びその同効物。
 - (6)請求の範囲第1~5項記載のルシフェラーゼまた はその同効物をコードする遺伝子。
- (7)第1図に示す塩基配列である請求の範囲第6項記 20 載の遺伝子。
 - (8)宿主細胞中で発現可能なプロモーターの下流に請求の範囲第6項記載の遺伝子を連結してなる組換え体ベクターDNA。
- (9) 大腸菌中で発現可能なプロモーター及びSD配列 の下流に請求の範囲第6項記載の遺伝子を連結して

なる組換え体ベクターDNA。

- (10)請求の範囲第8または9項記載のベクターDN Aにより宿主細胞を形質転換して得られる形質転換 体。
- 5 (11)宿主細胞が動物細胞、酵母及び大腸菌からなる 群から選ばれた1種である請求の範囲第10項記載 の形質転換体。
 - (12)請求の範囲第10または11項記載の形質転換体を培養することを特徴とするルシフェラーゼの生産方法。

15

10

20

第1 a 図

Met Lys Leu Ile Ile Leu Ser Ile Ile Leu Ala Tyr Cys Val Thr Val Asn Cys Gln Asp ATG AAG CTA ATA ATT CTG TCT. ATT ATA TTG GCC TAC TGT GTC ACA GIC AAC TGC CAG GAT 10 20 30 40 50 60
Ala Cys Pro Val Glu Ala Glu Ala Pro Ser Ser Thr Pro Thr Val Pro Thr Ser Cys Glu GCA TGT CCT GTA GAA GCT GAA GCA CCG TCA AGT ACA CCA ACA GTC CCA ACA TCT TGT GAA 70 80 90 100 110 120
50 60 Ala Lys Glu Gly Glu Cys Ile Asp Thr Arg Cys Ala Thr Cys Lys Arg Asp Ile Leu Ser GCT AAA GAA GGA GAA TGT ATC GAT ACC AGA TGC GCA ACA TGT AAA CGA GAC ATA CTA TCA 130 140 150 160 170 180
ASP Gly Leu Cys Glu Asn Lys Pro Gly Lys Thr Cys Cys Arg Met Cys Gln Tyr Val Ile GAC GGA CTG TGT GAA AAT AAA CCA GGG AAG ACA TGC TGT AGA ATG TGC CAG TAT GTA ATT 190 200 210 220 230 240
Glu Cys Arg Val Glu Ala Ala Gly Tyr Phe Arg Thr Phe Tyr Gly Lys Arg Phe Asn Phe GAA TGC AGA GTA GAA GCT GCT GGA TAT TTT AGA ACG TTT TAC GGC AAA AGA TTT AAT TTT 250 260 270 280 290 300
Gln Glu Pro Gly Lys Tyr Val Leu Ala Arg Gly Thr Lys Gly Gly Asp Trp Ser Val Thr CAG GAA CCT GGT AAA TAT GTG CTG GCT CGA GGA ACC AAG GGT GGC GAC TGG TCT GTA ACC 310 320 330 340 350 360
Leu Thr Het Glu Asn Leu Asp Gly Gln Lys Gly Ala Val Leu Thr Lys Thr Thr Leu Glu CTC ACC ATG GAG AAT CTA GAT GGA CAG AAG GGA GCT GTA CTG ACT AAG ACA ACA CTG GAG 370 380 390 400 410 420
Val Val Gly Asp Val Ile Asp Ile Thr Gln Ala Thr Ala Asp Pro Ile Thr Val Asn Gly GTA GTA GGA GAC GTA ATA GAC ATT ACT CAA GCT ACT GCA GAT CCT ATC ACA GTT AAC GGA 430 440 450 460 470 480

第1 b図

		Asp Pro GAC CCA 490													
		Pro Gly CCC GGC 550													
		Gly Arg GGA AGA 610													
		Gly Asn GGT AAT 670													
Ala GCG	Ile ATC	Gln Pro CAA CCC 730	Asn AAC	Ile Asn ATA AAC 740	Lys AAA	Glu GAG	250 Phe TTC 750	Asp GAC	Gly GGC	Cys Pro TGC CCA 760	Phe TTC	Tyr Gly TAC GGG 770	Asn AAT	Pro CCT	260 Ser TCT 780
Asp GAT	Ile ATC	Glu Tyr GAA TAC 790	Cys TGC	Lys Gly AAA GGT 800	Leu CTC	Met ATG	270 Glu GAG 810	Pro CCA	Tyr TAC	Arg Ala AGA GCT 820	Val GTA	Cys Arg TGT CGT 830	Asn AAC	Asn AAT	280 Ile ATC 840
		Tyr Tyr TAC TAT 850													
		His Val CAC GTC 910													

第1 c 図

Cys TG1	Val	Leu TTA 9	Ser TCA 70	Gly GGA	CAT	Thi AC1 980	Phe	e Ty C TA	. 33 r As T GA 99	p Th C AC	r Ph A TT	C GA	p Ly: C AA.	s Ala A GC	C AG	g Tyi A TAI 1010	Gli CAA	Ph	34 e Gl C CA 102
Gly GGC	Pro CCA	Cys TGC 10	AAA	Glu GAG	CTT	Leu CTG 040	Met ATG	Ala GC	350 a Ala C GCA 1050	A ASI	C TG	r tai	r Tri C TGC 060	ASI AA(CACA	Trp TGG	Asp GAT	Val GT	36 Ly A AA 108
Val GTT	Ser TCA	His CAT 109	AGA	Asp GAT	GTT	Glu GAG 100	Ser TCA	Tyr TAC	370 Thr ACT 1110	Glu GAC	Val	GAG	ı Lys AAA 20	Val GTA	ACA	Ile ATC 130	Arg AGG	Lys	38 Gl: CAI
Ser TCA	Thr ACT	Val GTA 115	GTA	Asp GAT	TTG	Ile ATT 160	Val GTG	GAT	390 Gly GGC 1170	Lys AAG	G l n CAG	GTC	Lys AAG 80	Val GTT	GGA	Gly GGA 190	Val GTG	GAT	400 Val GTA 1200
Ser TCT	Ile ATC	Pro CCG 121	TAC	Ser AGT	TCT	Glu GAG 20	Asn AAC	ACA	410 Ser TCC 1230	Ile ATA	Tyr TAC	Trp TGG 12	CAG	Asp GAT	GGA	Asp GAC 250	Ile ATC	CTG	420 Thr ACG 1260
Thr ACG	Ala GCC	Ile ATC 127	CTA	Pro CCT	Glu GAA 12	GCT	Leu CTT	GTC	430 Val GTT 1290	Lys AAG	Phe TTC	Asn AAC 130	TTT	Lys AAG	CAG	Leu CTC	Leu CTT	GTA	440 Val GTT 1320
lis CAT	Ile ATC	Arg A AGA (GAT (Pro 1 CCA 1	Phe i	GAT	Gly GGA	AAG	450 Thr ACA 350	Cys TGC	Gly GGC	Ile ATA 136	TGT	Gly GGT	AAC	Tyr TAT 70	Asn AAT	CAA	460 Asp GAT 380
Ser (Thr ACT	Asp A GAT G 1390	T TAE	he I	Phe #	SAC (Ala (GCA (GAA	470 Gly GGA 410	Ala GCA	Cys TGC	Ala GCT 142	CTG	Thr ACC	Pro CCC	AAT (Pro :	Pro CCA	480 Gly GGA 440

第1 d図

Cys Thr TGT ACA	Glu Glu GAG GAG 1450	Gln CAG	Lys Pro AAA CCA 1460	Glu GAA	490 Ala Glu GCT GAG 1470	Arg CGA	Leu CTC	Cys Asn TGC AAT 1480	Ser AGT	Leu Phe A CTA TTT G 1490	500 Asp Ser Ser AT AGT TCT 1500
Ile Asp ATC GAC	Glu Lys GAG AAA 1510	Cys TGT	Asn Val AAT GTC 1520	Cys TGC	510 Tyr Lys TAC AAG 1530	Pro CCT	Asp GAC	Arg Ile CGT ATT 1540	Ala GCA	Arg Cys N CGA TGT A 1550	520 let Tyr Glu ATG TAC GAG 1560
Tyr Cys TAT TGC	Leu Arg CTG AGG 1570	Gly GGA	Gln Gln CAG CAA 1580	Gly GGA	530 Phe Cys TTC TGT 1590	Asp GAC	His CAT	Ala Trp GCT TGG 1600	Glu GAG	Phe Lys I TTC AAA A 1610	540 Lys Glu Cys AAA GAA TGC 1620
Tyr Ile TAC ATA	Lys His AAG CAT 1630	Gly GGA	Asp Thr GAC ACT 1640	Leu CTA	550 Glu Val GAA GTA 1650	Pro CCA	Pro CCT	Glu Cys GAA TGC 1660	555 Gln CAA	*** TAAATGAAQ 1670	CAAAGATACAG 1680
AAGCTAA 1690	GACTACTA 170		AGAAGATA 1710	AAAG.	AGAAGCTG 1720		FCTT(730	CAAAAACA 174		ATTTTGATG1 1750	TACTCATTGTT 1760

1800

1780

1770

1790

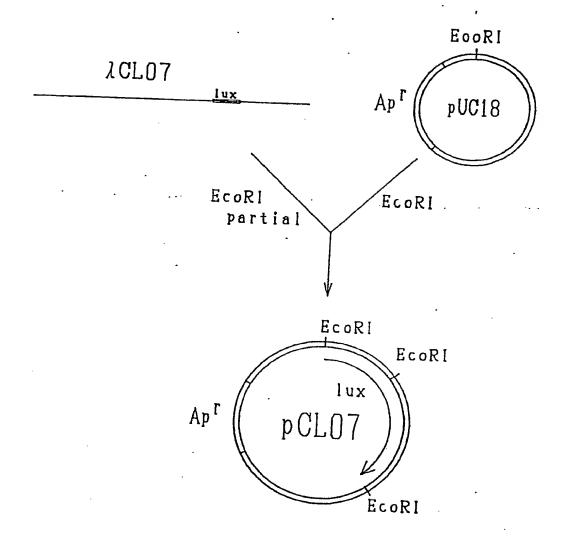
1810

1820

WO 90/01542

5/9

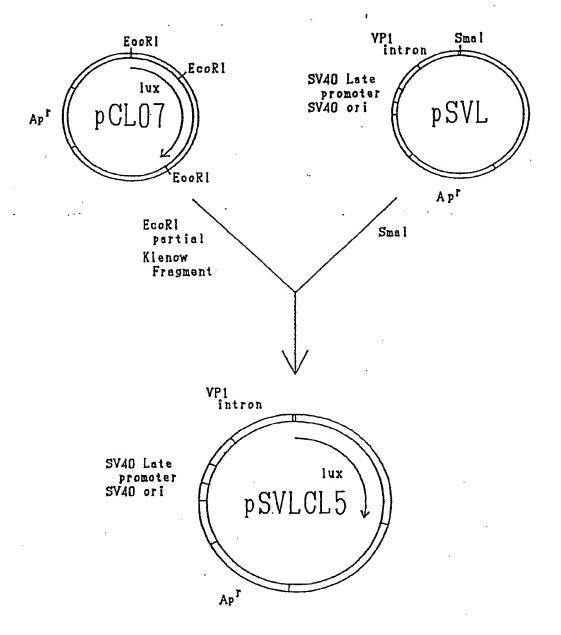
第2図



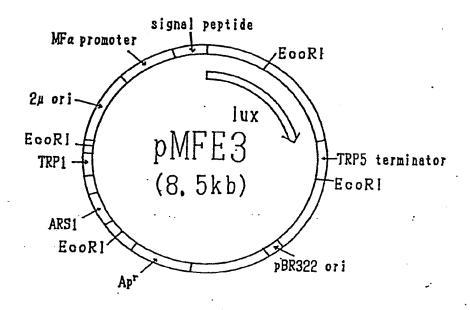
. . .

.....

第3図



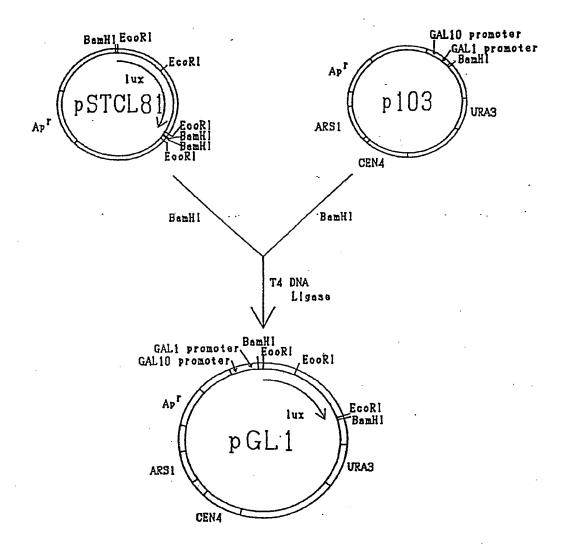
第4 a 図



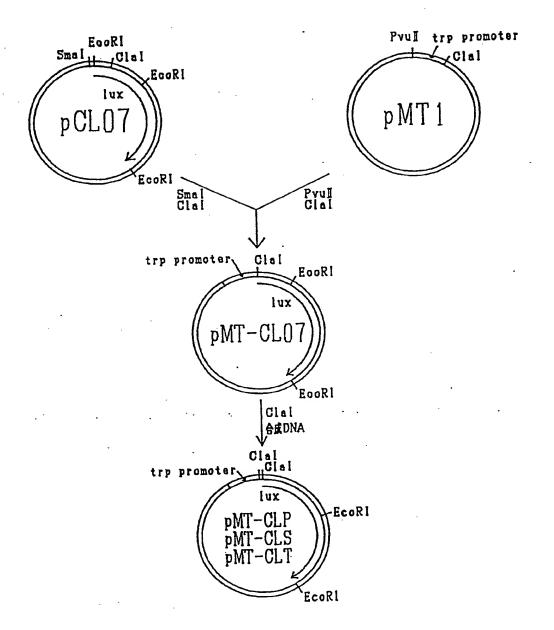
第4b図

(a) pMFE3A	Met····Lys	Arg		31 Ser			
(b) pMFE3B	Met····Lys	Arg	 	Ser	Thr	Pr.o	
(c) pMFE3C	Met····Lys	Arg	 		Thr	Pro	
(d) pMFE3D	Met···Lys	Arg	 Ser	Ser	Thr	Pro	• • •

第5図



第6図



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International Application No PCT/JP89/00811

CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER (if several classification symbols apply, indicate all) According to International Patent Classification (IPC) or to both National Classification and IPC											
According											
	Int. Cl ⁴ Cl2N9/02, Cl2N15/00										
II. FIELDS	II. FIELDS SEARCHED										
<u> </u>	Minimum Documentation Searched 7 Classification System Classification Symbols										
Classification											
IPC	IPC C12N9/02, C12N15/00										
	Documentation Searched other to the Extent that such Documents	han Minimum Documentation are included in the Fields Searched ^a									
COMP EMBI	COMPUTER SEARCH (CHEMICAL ABSTRACTS, BIOSIS DATABASES, EMBL-GDB, LASL-GDB AND NBRF-PDB)										
III. DOCU	MENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT .										
Category •	Citation of Document, 11 with indication, where app	ropriate, of the relevant passages 12	Relevant to Claim No. 13								
х, ч	BIOCHEMISTRY, Vol. 13, N. F.I.Tsuji, et al [Some P. Luciferase from the Biol Crustacean, Cypridina hi P. 5204 - 5209	roperties of uminescent	1 - 5								
A	SCIENCE, Vol. 234, No. 4 D.W.Ow, et al [Transient Expression of the Firefl Gene in Plant Cells and Plants] P. 856 - 859	and Stable y Luciferase	6 - 12								
А	WO, A1, 88/00617 (BOYCE INSTITUTE FOR PLANT RESE 28 Jaunary 1988 (28. 01.	ARCH, INC.)	6 - 12								
* Special	categories of cited documents: 10	"T" later document published after th	international filing date or								
"A" doc	ument defining the general state of the art which is not	priority date and not in conflict will understand the principle or theory	n ine application dut citée to l								
"E" earl	sidered to be of particular relevance ler document but published on or after the international a date	"X" document of particular relevance; be considered novel or cannot be	he claimed invention cannot								
"L" doct white cital "O" doct othe "P" doct	"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified) "O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means "a" inventive step document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art document member of the same patent family										
IV. CERT	IFICATION										
Date of the	Actual Completion of the International Search	Date of Mailing of this International Se	· ·								
Septe	ember 18, 1989 (18. 09. 89)	October 2, 1989	(02. 10. 89)								
Internation	al Searching Authority	Signature of Authorized Officer	1								
Japa	nese Patent Office										

Form PCT/ISA/210 (second sheet) (January 1985)

T Z4 85	の属するが	う野の分類			1
		Int. Cl'		···········	
ESDAM OIL)) Mil ()	C12N9/02, C12N	115/00		
		C12N9/02, C12N	115/00	•	
II. 国際	調査を行っ				
		調査を行って		料	
分類	体系	分	類記号		
ΙP	С	C12N9/02, C12N	115/00		
	<u>.</u>	最小限資料以外の資料	料で調査を行ったも	Ø	
CON	ADITTE	R SEARCH (CHEMICAL	ABSTRACTS.	BIOSIS	DATABASES.
		B, LASL-GDB AND NB			
II. Ņi	とする技術は	と関する文献			
引用文献の ※ カテゴリー	引用)	文献名 及び一部の箇所が関連すると	さは、その関連する箇	所の表示	請求の範囲の番号
х. ч	віос	CHEMISTRY, 第13章	巻, 第 2 5 号 。	(1974)	1-5
	F.I.1	suji, et al [Some	Properties	01	
	Luci	ferase from the B taceam Cypridina	101umineset	: N &	
		0 4-5 2 0 9	HI\ Rengoli	4.3	
	P. 5 Z	0 4 - 5 2 0 3			
A	SCII	ENCE, 第234卷, 第4	778号, (19	86),	6-12
	D. W. (Ow. et al [Transie	nt and Sta	ble	
	Expr	ession of the Fir	efly Lucife	rase	
		in Plant Cells a	nd Transger	aic	
	Plan	tsJP.856-859			
A :	. WO .	A1, 88/00617(BO	YCE THOM	PSON	6-12
A	INS'	CITUTE FOR PLA	NT RESEA	RCH,	
1 :	INC.				
!		月. 1988(28.01.	88)	÷	
			•		<u> </u>
	(献のカテ		「丁」国際出願日又は優	先日の後に公表	された文献であって出
2 ,		文献ではなく、一般的技術水準を示すもの るが、国際出願日以後に公表されたもの	願と矛盾するもの のために引用する	• -	の原理又は理論の理解
		義を提起する文献又は他の文献の発行日	「X」特に関連のある文	献であって、当	该文献のみで発明の新
		別な理由を確立するために引用する文献	規性又は進歩性が 「Y」特に関連のある文	ないと考えられる	るもの 対文針と他の1以上の
	由を付す) による開示	、使用、展示等に言及する文献	文献との、当業者	にとって自明で	ある組合せによって進
		、かつ優先権の主張の基礎となる出願の	歩性がないと考え	られるもの	
H Ø)後に公表さ	れた 又 飲 	「&」同一パテントファ	<u> </u>	
IV. 22		E			
国際調査を	完了した日	-	国際調査報告の発送日	02.10	. gg
	1 8	. 09. 89		U 20 11.	J. U.J
国際調査機	(K)		権限のある敵員		4 B 7 8 2 3
8	本国特	許庁 (ISA/JP)	特許庁審査官	平田	和男養
L					

様式PCT/ISA/210(第2ページ) (1981年10月)

This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning Operations and is not part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

| BLACK BORDERS
| IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
| FADED TEXT OR DRAWING
| BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
| SKEWED/SLANTED IMAGES
| COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
| GRAY SCALE DOCUMENTS
| LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
| REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

☐ OTHER: ___

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.